

2022年01月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時
2022年01月08日(土) 10:00~17:00

2. 開催場所
アイテックインターナショナル(オンサイト)
Teamsを用いてのリモート(オンライン)

3. 会員参加者<敬称略>S: オンサイト出席・L: オンライン出席、欠: 欠席、書: 書記、休: 休会

大見	L	牧野	L	横尾	L	杉浦	L	城越	L	合田	L	伊藤	L	舟山	L
出島	L	福田	L	水田	L	山中	L	小峰	L	山口(展)	L	黒田	L	鈴木	L
古谷	L	池田	L	三浦	書	岡本専務	L	北村局長	L						
小西	休	中山	休	山口(直)	休	庄内	休	李	休	河合	休	則尾	休		

4. 研究会内容

1) 輪講: ロバスト設計のための機能性評価 第22章 信号因子に対する目的機能の評価(1) (鈴木)

ソフトウェアのバグテスト方法

- ・ソフトウェアのバグテストを直交表を使うことで、全ての組合せを実施しなくても効率的に少ない組合せで実施する方法が解説されている。
例では、L18直交表や擬因子法による割り付けなど説明されている。
輪講内では「水準ずらし」などの補足がメンバーからあり、理解が深まった。

2) 手法紹介 テーマ名: T法貢献度の検討 (牧野)

- ・T法で使用する貢献度を算出する。
- ・直交表3種類(2n型・ペイリー型・ウィリアムソン型)について、項目数を変化させた場合の交互作用について、検討した結果について紹介。
- ・この事例は、研究発表大会で報告予定。

3) 直交表解析: シミュレーション実験を用いた直交表の分析 (池田)

- ・品質工学が活用できる人材の早期育成に向け、シミュレーションによるベテランのノウハウ可視化を試行している。
- ・同内容に関し、6月の品質工学発表大会にて、中部品質工学研究会のオーガナイズドセッションの1つとして発表予定。
- ・今回は望大特性の注意点について検証した。メンバー用別途資料あり。

4) 2022年 輪講対応について (幹事)

- ①ベテランと初学者用を分けて対応 → メリット: 最適レベル対応で各自のレベルが向上。
デメリット: 設定準備工数大・指導役に負担増
 - ②優秀・推奨冊子(分かり易い文献)の輪講 → メリット: 広域の知識レベルの向上
デメリット: 単会終結でなく連続学習・直接業務と乖離
 - ③QE論文分析 → メリット: テーマPointを上下レベル者で注目点を協議し、解釈の相違点が学習となる。
実践テーマなため身近な内容で共有しやすい。
デメリット: テーマ選定
論文解釈注目点: これまで未解決の論文テーマに対し、変更前後で何が変わったのかに注目すべき。
(a)基本や目的機能は、何処になるのか? (b)今回問題解決への新技術・新測定・解釈はどこなのか?
初学者にとって、ベテラン者の別な見識は、より良い教育訓練となる。
- ⇒ まとめ: 幹事会にて③に対しテーマ検討等を行なう。次回検討会で具体的に提案。

5) 事務局連絡

- ①研究会予定： 2022年間予定表案提示。事務局にてどこでもキャビネットにアップした（1月11日）。
- ②会計報告：数十万の予算余裕あり → ソフト等要望があれば幹事or事務局に連絡へ。
- ③どこでもキャビネット：未対応の方へ、全員に再紹介。使い方資料を全員に再配布した(1月8日)。
- ④RQS：大会対応を協議して取り決めた (i)セッション・(ii)発表 対象者への確認
- ⑤対外予定：2022計画案提示
- ⑥中品協から北村様（事務局長）のご紹介あり。

以上